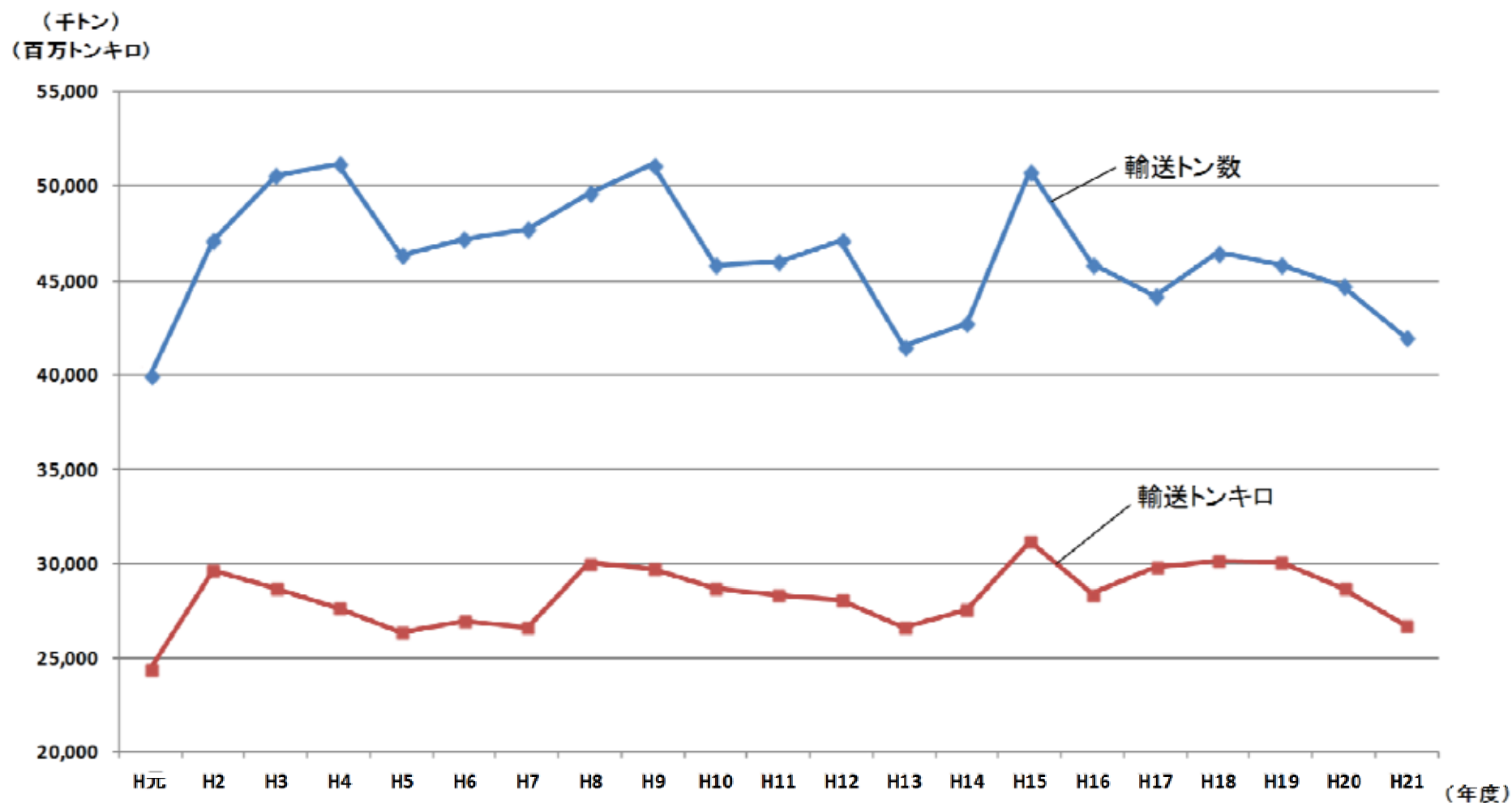


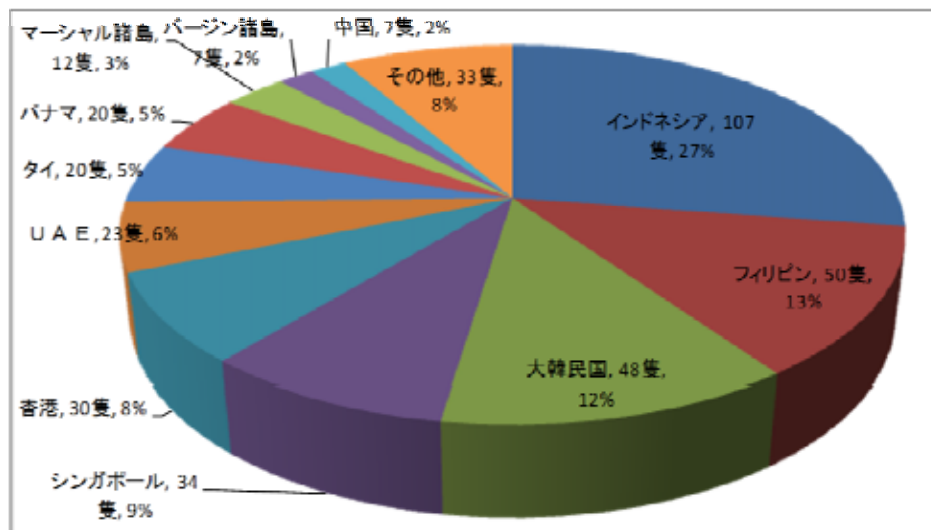
モーダルシフトの対象貨物と想定される一般雑貨について、内航海運による輸送量の推移を見ると、トンキロベースはここ20年概ね横ばい～微増であり、平成19年以降は減少しているところ。



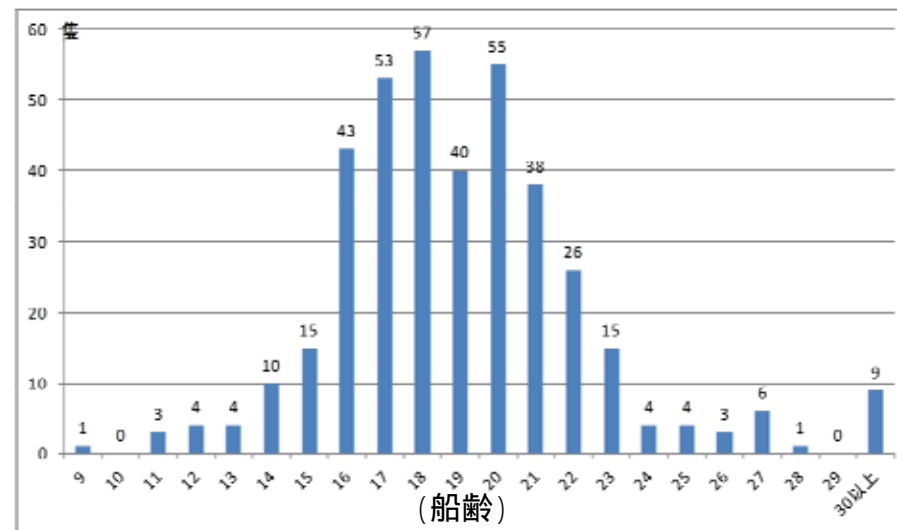
中古船舶の海外売船状況

内航船は、そのほとんどが海外売船されているが、主な相手国はインドネシア、フィリピン、韓国等のアジア諸国、売船船齢は16歳～21歳程度、売船価格は国内トン数199GTの一般貨物船で約1千万～5千万円、499GTの一般貨物船で約4千万～1億5千万円程度。

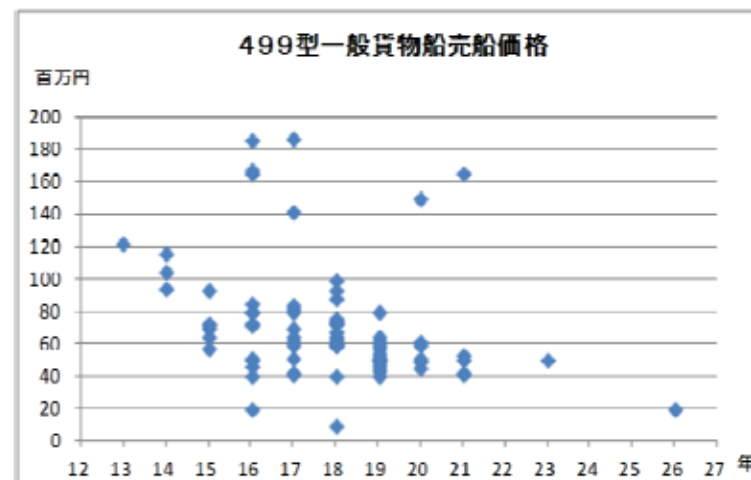
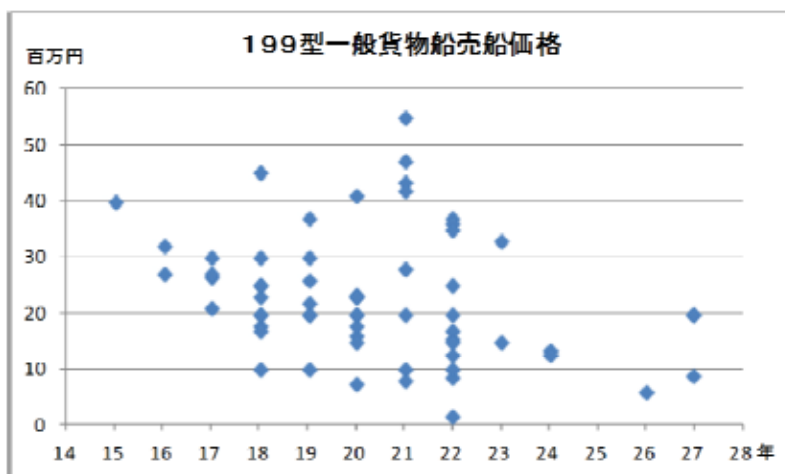
1. 主な売船相手国(平成20年1月～平成22年11月)



2. 売船船齢分布(平成20年1月～平成22年11月)



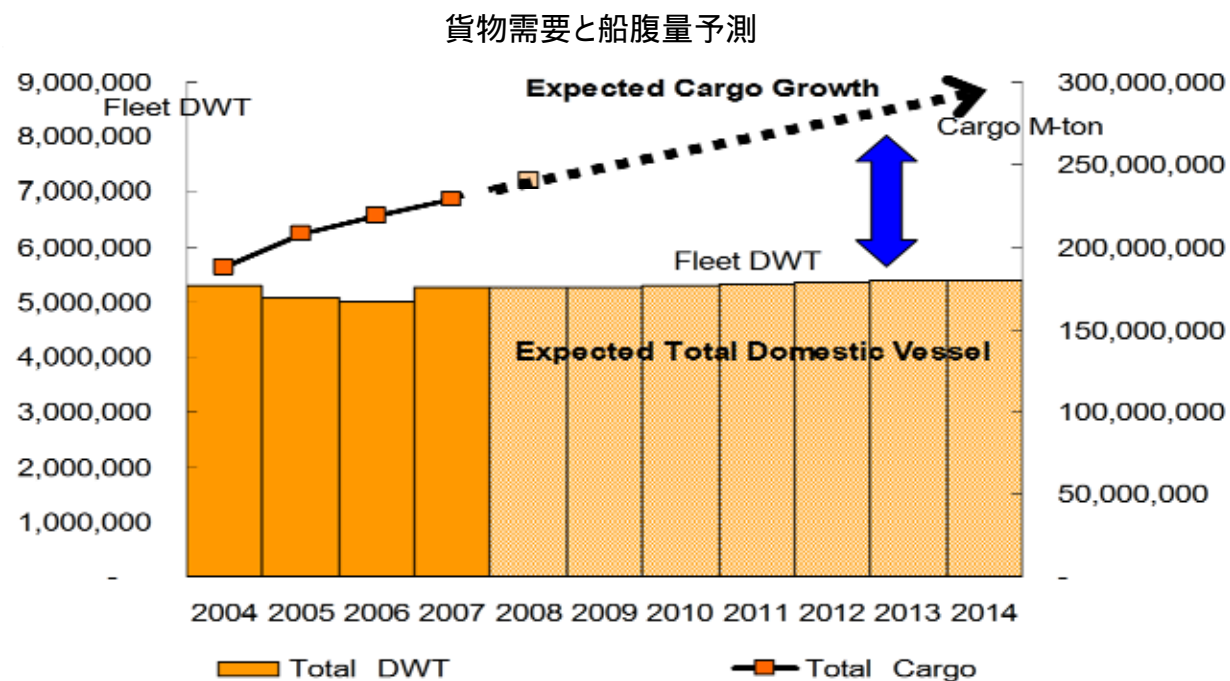
3. 船齢別売船価格



(船舶の現状・問題点)

・インドネシアの内航海運は、輸送量に比して船舶の不足・老朽化が問題。

* 55%が船齢21年以上、35%が船齢25年以上



船齢, 2007

	Total	%
新造船	53	2%
1 - 5年	297	10%
6 - 10年	255	9%
11 - 15年	268	9%
16 - 20年	441	15%
21 - 25年	563	20%
25年以上	1004	35%
合計	2881	100%

出所: 運輸省海上交通局(DGST)データ(2007年)
推計: 過去4年間の実績値より推計